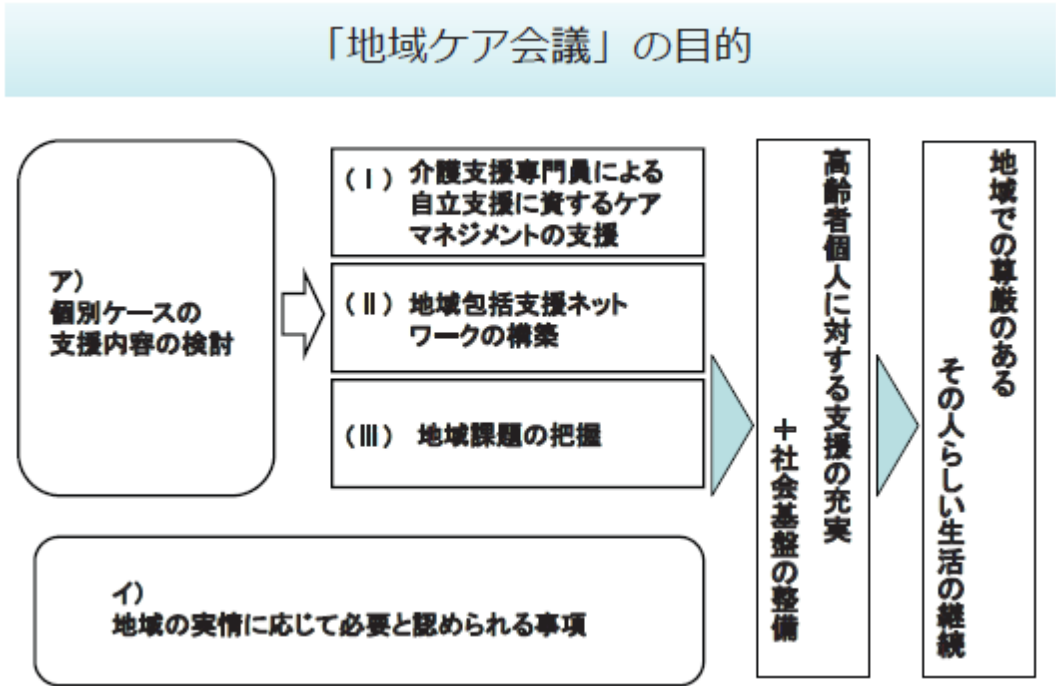


地域ケア会議について

1. 地域ケア会議とは



- ・ 個別ケースの支援内容の検討を積み重ねることによって、共通する課題や共通する要因を見出し、**個人に対する支援の充実**を図る
- ・ 把握した地域課題や支援に関する成功要因、また他の方法で把握された地域課題などをもとに、その地域に不足している社会支援の開発、地域課題の解決のために必要な人材の育成、新たな仕組みづくりに向けた政策形成につなげ、**社会基盤の整備**を行う

地域ケア会議の5つの機能



2. 地域ケア会議が有効と考えられる事例について

- ・サービス担当者会議で解決困難な課題を抱えたケース
- ・支援者が困難を感じているケース
- ・支援が自立を阻害していると考えられるケース
- ・必要な支援につながないケース
- ・権利擁護が必要なケース
- ・地域課題に関するケース など

3. 実施について

(1) 参加者

ケースに関わる支援者や今後関わる可能性がある関係者で構成する。ケースの特性から専門的視点の助言を求めることが必要と地域包括支援センターが判断した時は、オブザーバーの参加を調整する。

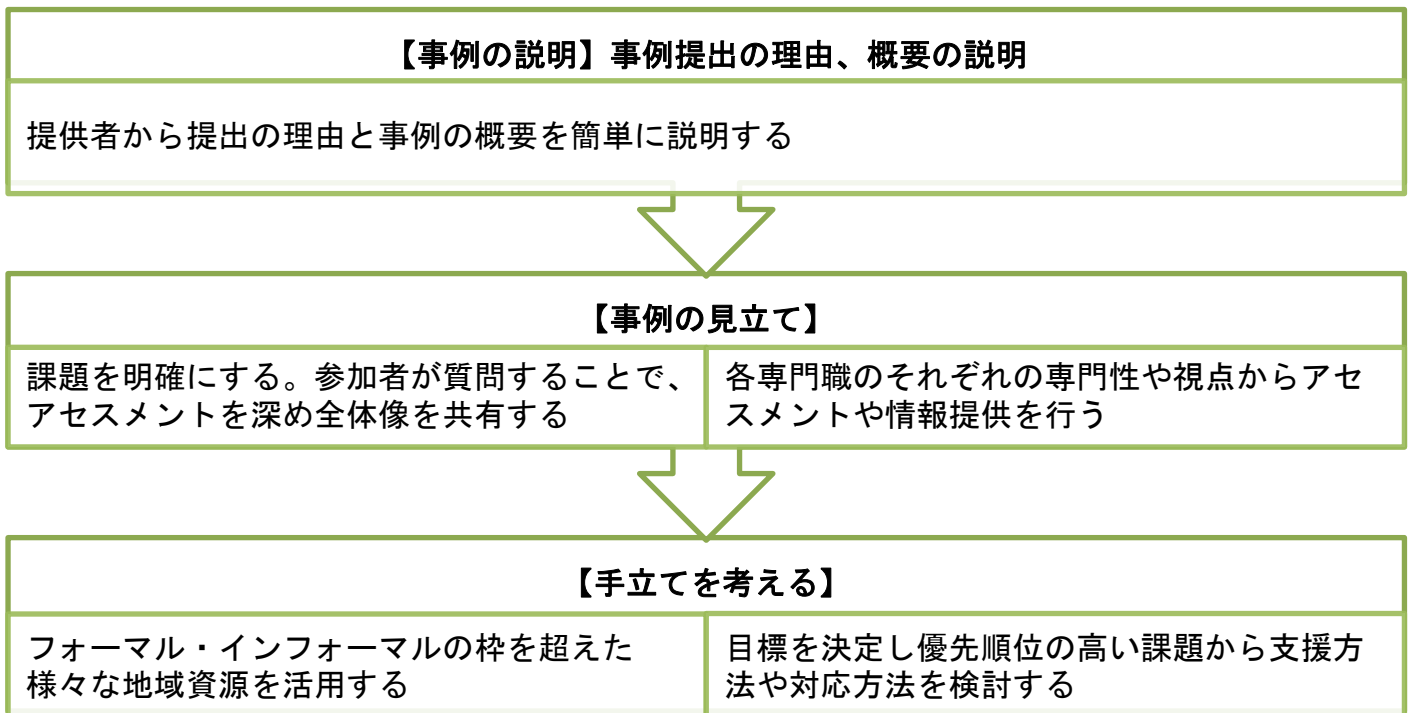
【参加者の例】

- | | | | |
|---------------|------------------|--------------|------------|
| ・ケアマネジメント担当者 | ・本人や家族 | ・医師、歯科医師、薬剤師 | ・介護保険施設従事者 |
| ・介護サービス事業所従業員 | ・医療機関職員（相談員・看護師） | ・弁護士、司法書士 | |
| ・近隣の協力者 | ・児童民生委員 | ・ボランティア | ・社会福祉協議会 |
| | | ・消防、警察 | など |

(2) 多職種が協議する意義

- ・多職種がアセスメントを行い、ケースの課題を明確にする
- ・多職種で適切な支援を図るために必要な検討を行う
- ・解決のために既存の社会資源の活用を図る
- ・個別事例の検討を通して、高齢者の自立支援に資するケアマネジメントを図る
- ・地域での多職種協働、ネットワークの構築を図る

(3) 地域ケア会議の進行方法



(3) 地域ケア会議の参加者への効果

- ・担当者が一人で考えるのではなく、複数の専門職が多面的にアセスメントをすることで、事例の課題が明確になり、総合的な判断が可能となる
- ・自分の知らない領域の知識や技術を学ぶことができる
- ・事例提供者が、肯定的フィードバックと、専門的な助言、多職種の見解を得ることによって自分の視点や行動を修正する機会になる
- ・事例を取り巻く地域の課題を発見する機会となる
- ・事例の見立てや手立ての検討を丁寧に行うことによって、事例を取り巻く環境に不足や不備が見えてくるため、今後どのように環境整備をするべきか具体的に把握ができる
- ・参加者の自立支援について理解を促進することができる